

2026年3月期 第1四半期決算に関するお知らせ

日本酸素ホールディングス(株) (社長 CEO: 濱田 敏彦) では、2026年3月期 第1四半期の業績が確定しましたのでお知らせします。詳細は、[当社ウェブサイト](#)に開示しております決算短信および決算電話会議資料をご覧ください。

記
1. 2026年3月期 第1四半期業績概要

当第1四半期連結累計期間(2025年4月1日から2025年6月30日まで)における当社グループの事業環境は、引き続き、先行きを見通すことが困難な状況でした。

このような状況の下、グループ全体における製商品の出荷数量は前年同期比で減少しました。グループ全体としては、コスト上昇による販売価格への転嫁等の価格マネジメント、そして地域ごとに生産性向上プログラムに継続的に取り組みました。これらの結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上収益3,147億58百万円(前年同期比4.4%減少)、コア営業利益456億20百万円(同5.7%減少)、営業利益455億47百万円(同5.1%減少)、親会社の所有者に帰属する四半期利益283億95百万円(同2.4%減少)となりました。

(単位:十億円)	2025年3月期	2026年3月期	前年同期比		為替影響除き 増減率
	第1四半期 (4-6月期)	第1四半期 (4-6月期)	増減額	増減率	
売上収益	329.2	314.7	-14.5	-4.4%	-0.1%
コア営業利益	48.3	45.6	-2.7	-5.7%	-1.0%
コア営業利益率	14.7%	14.5%			
非経常項目	-0.3	-0.0	+0.3		
営業利益 (IFRS)	47.9	45.5	-2.4	-5.1%	
営業利益率	14.6%	14.5%			
EBITDAマージン	23.6%	23.8%			
金融損益	-5.0	-5.5	-0.5		
税引前四半期利益	42.9	39.9	-3.0	-6.8%	
法人所得税	13.2	10.7	-2.5		
四半期利益	29.6	29.2	-0.4	-1.3%	
(四半期利益の帰属)					
親会社の所有者に帰属する四半期利益	29.0	28.3	-0.7	-2.4%	
四半期利益率	8.8%	9.0%			
非支配持分に帰属する四半期利益	0.5	0.8	+0.3		

2. 2026年3月期 通期業績予想

2025年5月12日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

	2025年3月期	2026年3月期	前期比		2026年3月期	
	通期	通期予想	増減額	増減率	通期予想	増減率
(単位：十億円)		(2025年5月12日発表)			(為替影響除き)	
売上収益	1,308.0	1,290.0	-18.0	-1.4%	1,328.8	+1.6%
コア営業利益	189.1	191.0	+1.9	+1.0%	197.2	+4.3%
コア営業利益率	14.5%	14.8%			14.8%	
非経常項目	-23.2	0.0	+23.2		0.0	
営業利益 (IFRS)	165.9	191.0	+25.1	+15.1%	197.2	+18.9%
営業利益率	12.7%	14.8%			14.8%	
EBITDAマージン	23.3%	24.1%			24.1%	
金融損益	-20.6	-22.5	-1.9		-23.0	
税引前利益	145.2	168.5	+23.3	+16.0%	174.2	+20.0%
法人所得税	43.3	49.0	+5.7		50.5	
当期利益	101.9	119.5	+17.6	+17.2%	123.7	+21.4%
(当期利益の帰属)						
親会社の所有者に帰属する当期利益	98.7	116.0	+17.3	+17.4%	120.2	+21.7%
当期利益率	7.6%	9.0%			9.0%	
非支配持分に帰属する当期利益	3.1	3.5	+0.4		3.5	
為替レート (円)	USD (米ドル)	152.57	141.00		152.57	
(期中平均レート)	EUR (ユーロ)	163.66	162.00		163.66	
	AUD (豪ドル)	99.27	90.00		99.27	

(参考情報)

2026年3月期 第1四半期業績業績 (セグメント別)

(単位: 十億円)		2025年3月期	2026年3月期		前年同期比			
		第1四半期 (4-6月期)	第1四半期 (4-6月期)	構成比	増減額	増減率	為替影響	為替影響除き 増減率
日本	売上収益	100.9	97.4	30.9%	-3.5	-3.5%	-0.1	-3.3%
	セグメント利益	11.5	13.3	29.3%	+1.8	+15.6%	-0.0	+15.9%
	セグメント利益率	11.5%	13.7%					
米国	売上収益	92.6	83.9	26.7%	-8.7	-9.3%	-8.4	-0.2%
	セグメント利益	14.8	11.4	25.1%	-3.4	-22.6%	-1.3	-14.6%
	セグメント利益率	16.0%	13.6%					
欧州	売上収益	85.0	82.4	26.2%	-2.6	-3.1%	-2.4	-0.2%
	セグメント利益	16.6	16.0	35.2%	-0.6	-3.6%	-0.4	-0.7%
	セグメント利益率	19.6%	19.5%					
アジア・オセアニア	売上収益	42.4	42.3	13.4%	-0.1	-0.3%	-3.1	+7.6%
	セグメント利益	4.3	3.4	7.5%	-0.9	-20.4%	-0.3	-13.1%
	セグメント利益率	10.2%	8.1%					
サーモス	売上収益	8.2	8.6	2.7%	+0.4	+4.6%	-0.0	+5.4%
	セグメント利益	1.2	1.7	3.8%	+0.5	+38.6%	+0.0	+38.4%
	セグメント利益率	15.0%	19.9%					
調整額	売上収益	0.0	0.0	0.0%	-0.0	—	—	—
	セグメント利益	-0.2	-0.4	-0.9%	-0.2	—	—	—
連結合計	売上収益	329.2	314.7	100.0%	-14.5	-4.4%	-14.2	-0.1%
	セグメント利益	48.3	45.6	100.0%	-2.7	-5.7%	-2.2	-1.0%
	コア営業利益率	14.7%	14.5%					

【日本】

産業ガス関連では、主に炭酸ガス、パッケージガス、電子材料ガスの価格マネジメント効果があったものの、セパレートガスをはじめとするガスの出荷数量が減少し、減収となりました。機器・工事では、エレクトロニクス関連は中大型案件の工事の進捗に伴う売上等により、増収でしたが、産業ガス関連は減収となりました。一方、セグメント利益は、価格マネジメント効果や電力代の落ち着きが寄与し、増益となりました。

【米国】

産業ガス関連では、主に価格マネジメント効果により、増収となったものの、セパレートガス以外の製商品の出荷が低調でした。機器・工事では、産業ガス関連、エレクトロニクス関連共に減収となりました。セグメント利益は、価格マネジメント効果や生産性向上への取組みがあったものの、主に為替の影響や、製商品の出荷数量減少の影響を受け、減益となりました。

【欧州】

産業ガス関連では、価格マネジメント効果があったものの、セパレートガスをはじめとするガスの出荷数量が減少し、減収となりました。機器・工事では、前期に買収したイタリアのプラントエンジニアリング会社の売上収益が加わったことが寄与し、増収となりました。セグメント利益は、価格マネジメント効果や生産性向上への取組みがあったものの、主に為替の影響や、ガスの出荷数量減少の影響を受け、減益となりました。

【アジア・オセアニア】

産業ガス関連では、前期に取得したオーストラリアのLPガス販売事業の寄与や、価格マネジメント効果があったものの、為替の影響や、製商品の出荷数量の全体的な減少により、減収となりました。エレクトロニクス関連

では、機器・工事が堅調に推移し、増収となりました。セグメント利益は、主に為替の影響や、製商品の出荷数量減少の影響及び一部地域で人件費等のコスト上昇を受け、減益となりました。

【サーモス】

日本では、機能的でスタイリッシュなデザインを特徴とする新製品の上市により、増収となりましたが、韓国では減収となりました。セグメント利益は、日本における売上収益の増加に加え、継続的なコスト削減により、増益となりました。

以上

日本酸素ホールディングスグループは、日本、米国、欧州、アジア・オセアニアの4つの地域で30超の国と地域をカバーする世界第4位の産業ガス、電子ガス、医療用ガスのサプライヤーです。また、サーモス事業では、世界120カ国以上にTHERMOSブランド製品を供給しています。1910年に日本酸素合資会社として設立されて以来、当社グループは、革新的なガスソリューションを通じて社会的価値を創造し、産業の生産性を高め、人々の豊かで健康な暮らしとより持続可能な未来に貢献することを使命としています。19,000名以上の従業員を擁する私たちは、"The Gas Professionals"として、“進取と共創。ガスで未来を拓く。”という同じ目標を掲げています。

お問い合わせ先

日本酸素ホールディングス株式会社

広報部

03-5788-8513

Nshd.Info@nipponsanso-hd.co.jp